

下水道用鉄筋コンクリート管（JSWAS A-1）規格改正について

全国ヒューム管協会

12月1日付けで、日本下水道協会規格「下水道用鉄筋コンクリート管」（JSWAS A-1）が改正されました。下水道用鉄筋コンクリート管（JSWAS A-1）は、昭和44年に下水道用高強度管の規格として制定され、以後昭和49年、61年、62年及び平成15年に改正されてまいりました。

今回の改正では、前回の改正から8年が経過したことを踏まえ、2010年に改正された関連JIS規格との整合性や地震時において要求される耐震性能を考慮した管の整理統合をポイントに検討されました。その結果、直管の種類、寸法の許容差、骨材等の現行JIS規格との整合および検査の間隔等に関して見直しが行われ、C形管が直管の種類から削除されました。

削除理由は、“地震時の継手部耐震性能（拔出し長さ）については、「下水道施設の耐震対策指針と解説」におけるレベル1地震動に対して、すべての規定管が対応可能である。一方、レベル2地震動に対しては、地盤の永久ひずみ1.2%～1.5%を考慮する場合、C形については一部の呼び径で耐震性能を満足しないため、直管の種類からC形を削除し、全ての条件において性能を満足しているNC形に一本化した。”となっております（JSWAS A-1 2011 解説より）。以下に主な改正点を示します。

日本下水道協会規格

下水道用鉄筋コンクリート管(JSWAS A-1 2011)の主な改正点

改正箇所	改正内容
2.1 直管	直管の種類から、C形は耐震性能が条件によって不足するため、規格から削除された。
4.形状、寸法及び寸法の許容差	NC形の形状、寸法及び寸法の許容差（L,L1）に関して、L1の許容差を削除し、有効長Lの許容差のみが規定された。 短管（BS形及びBT形）の形状、寸法及び寸法の許容差における有効長に関して、他の種類の管の許容差との整合性を考慮し、変更された。（+5-15 ±5）
5.2 骨材	JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の附属書6「セメントの選定等によるアルカリ骨材反応の抑制対策の方法」 附属書B「アルカリシリカ反応抑制対策の方法」に附属書番号および語句が変更された。
解説 8.検査方法	8.3寸法および8.4外圧強さにおける検査ロットに関し、一組の本数の他検査の間隔が併記された。